

## 第48回 糖尿病学の進歩

札幌コンベンションセンター F会場 2014年3月8日(土) 13:30~15:00

### 糖尿病の基礎・臨床における女性医師のキャリア形成

# 女性糖尿病医を支援するための提言

**田嶋尚子**

女性糖尿病医をpromoteする委員会委員長  
東京慈恵会医科大学

# The Global Gender Gap Report 2013

世界経済フォーラム(WEF)が毎年発表する世界各国の男女格差に関するレポート  
男女の格差を指数化し、各国を順位付けする。上位ほど男女の格差が少ない。

## ■ Economic Participation and Opportunity (経済活動の参加と機会)

給与、参加レベル、および専門職での雇用

## ■ Educational Attainment (教育)

初等教育や高等・専門教育への就学

## ■ Political Empowerment (政治への関与)

意思決定機関への参画

## ■ Health and Survival (健康と生存)

寿命と男女比

	2012年	2013年
1.	アイスランド	アイスランド
2.	フィンランド	フィンランド
3.	ノルウェー	ノルウェー
4.	スウェーデン	スウェーデン
5.	アイルランド	フィリピン

日本の順位	
2011年	98位
2012年	101位
2013年	105位

- 世界の他の諸国と比べて人口の老齢化が早い
- 出生率が世界で5番目に低い
- OECD諸国で、女性の労働参加率が最も低い
- 議会の女性議席率は11.25%

# 就業者及び管理的職業従事者における女性割合

総務省「労働力調査(基本集計)」2012年

第1図 就業者及び管理的職業従事者における女性割合



- (備考) 1. 総務省「労働力調査(基本集計)」(平成24年)、独立行政法人労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2012」より作成。
2. 日本は平成24年、オーストラリアは2008(平成20)年、その他の国は2010(平成22)年のデータ。
3. 総務省「労働力調査」では、「管理的職業従事者」とは、就業者のうち、会社役員、企業の課長相当職以上、管理的公務員等をいう。「管理的職業従事者」の定義は国によって異なる。
4. 総務省「労働力調査」では、平成24年1月結果から、算出の基礎となる人口が24年国勢調査の確定人口に基づく推計人口(新基準)に切り替えられている。



# 第3次男女参画基本計画における成果目標の動向

平成25年10月18日時点

## 第1分野 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

衆議院議員の候補者	15.0%(2012年)→	30%(2023年)
本省課長補佐相当職以上	5.1%(2011年)→	10%程度(2030年)
国の審議員等	32.9%(2012年)→	40%以上60%以下(2033年)
民間企業の課長相当職以上	6.9%(2012年)→	10%程度(2015年)

## 第4分野 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保

25歳から44歳までの女性の就業	66.7%(2012年)→	73%(2020年)
第一子出産前後の女性の継続就業率	38%(2010年)→	55%(2020年)

## 第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする 教育・学習の充実

大学の教授等に占める女性の割合	18.9%(2013年)→	30%(2020年)
-----------------	---------------	------------



# 北欧諸国の政策

- 包括的な家族・育児規定
- 育児への助成
- 小さい子どもを持つ親へのフレックス労働時間導入
- 大学を含めた教育の無償化
- 両親の育児休暇の分担
- 老人に対する支援と介護
- 仕事と生活のバランス

**男女共同参画の鍵は  
権限・手当・労働の再分配**

2013年12月17日

日本糖尿病学会 将来計画委員会  
委員長 荒木 栄一 先生

## 女性糖尿病医をpromoteする委員会 中間報告

日本糖尿病学会は将来計画委員会の提言を受け、2012年6月に「女性糖尿病医をpromoteする委員会」を新たに設置した。この委員会の目的は、糖尿病分野における女性医師参画の実態を明らかにし、内在する課題に光を当て、糖尿病学や糖尿病診療に携わる女性医師のキャリア形成を支援するための方策を提言することである。

以下に、平成25年度「女性糖尿病医を支援するための提言」に関する中間報告をまとめた。

1. 専門医
2. 学術集会
3. 役割・クオータ制
4. キャリア支援

女性糖尿病医をpromoteする委員会

安孫子 亜津子

川浪 大治

川畑 由美子

\* 田嶋 尚子

成瀬 桂子

南 昌江

山本 弥生

脇 裕典

(五十音順、\* 委員長)

# 専門医について

- 妊娠・出産・介護などが専門医の取得や更新の障害にならない配慮
  - eラーニング
  - DVDを用いた学習の機会の設置
  - 復職の契機になる学習・研究会の開設
- 広報の充実・学会ホームページの拡充
  - 女性医師支援ボタンの設置
  - 産休・育休の場合の専門医更新延長に関するアナウンスの提示
- 専門医取得に関する障壁を減らすよう、関連学会に配慮を求める

# 学術集会について

- 全国規模の学術集会
  - 参加しやすい日程(開催期間に土、日を含める)
  - 交通の便がよい場所(大都市など)での開催
- 各支部主催の研修会や研究会の開催
  - 知識の維持と生涯学習
  - 産休、育休からの復帰サポートのための研修
  - 専門医維持のための単位取得の対象
- 託児所の設置
  - 設置されていることの認知度をあげる
  - 対象を未就学児童のみから、小学校低学年まで引き上げる



# 役職・クォータ制

- 学会活動への女性糖尿病医の積極的な参画の推進
- 糖尿病学会(年次学術集会および各支部地方会)における座長・学術評議員における女性の割合の増加に関する目標
  - 女性座長数を6～7%から、5年後を目途に20%へ
  - 女性学術評議員数を10%以下から、暫定的に10%以上へ
- 女性糖尿病医が研究および臨床の実績を重ねていくことにより、将来的に医師会員数の男女比に沿った割合になることが理想。

民間企業の課長相当職以上に占める女性の割合  
6.9%(2012年) → 10%程度(2015年)

# キャリア支援

- 女性医師の30代での離職率(約25%)の改善
- 勤務体系の整備や子育て支援の充実
- 若手研究者研究支援事業に、一定の女性枠を設ける
- 学会ホームページにおける情報提供
  - 多様な勤務体系(フレックス勤務、時間短縮勤務など)
  - 保育システムの具体例
- 女性医師キャリア支援部門の創設と、各種情報発信

女性糖尿病医の離職率の改善・キャリアアップは男性医師も含めた医師不足や医師の過重労働を解決していく一手段としても、社会的に重要な課題であり、糖尿病学会としてこれを積極的に支援する必要がある。

# アメリカでも ガラスの天井？

ガラスの天井を打ち砕くためにというのは  
彼女を議長に任命するのによい理由ではない。  
ブラインダー元FRB副議長

大統領は男性であれ女性であれ、白人であれ  
非白人であれ、最良の候補を探すべきだ。  
ヒルズ元米通商代表部代表

確かに中央銀行トップには女性は少ないが、  
その下のレベルでは女性は増えている。  
経済を学ぶ女性も増えているので女性はどん  
どん高い位置についていくと思う。

イエレンFRB副議長